



くりのみ学級外観南西より

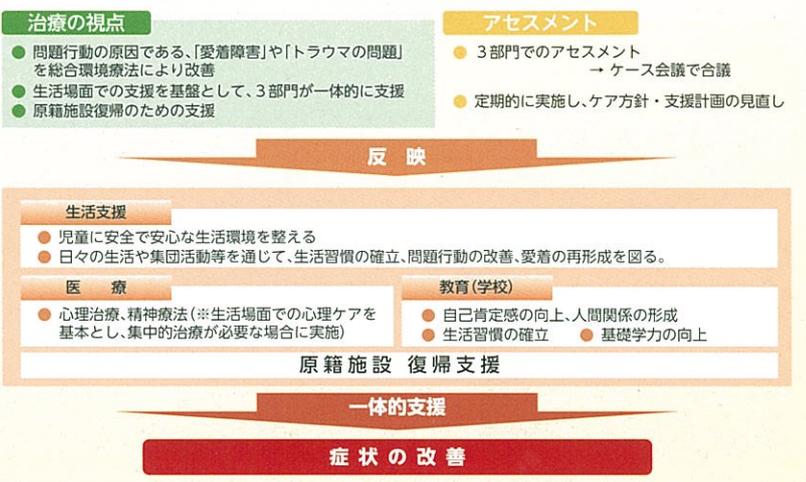
連携型専門ケア機能モデル事業について

石神井学園では27年度より、連携型専門ケア機能モデル事業を東京都から受託しています。本事業は、虐待によるトラウマや愛着障害等のある児童に対し、生活支援、医療、教育を一体的に提供する「総合環境療法」の考え方をもとに支援を行っています。

対象は、児童養護施設で生活をしている、重篤な症状のある児童で、思春期を迎える前の最長2年間で愛着の再形成を図ることから、原則、小学校5年生*（入所時点）までとしています。当園での支援終了後は、原籍施設での生活に戻ります。

本事業では、精神科医師や心理士のアセスメントに基づき、治療的な視点を取り入れた生活支援をしています。教育面では、園内にある小学校の分教室に通学し、通常の教科学習の他、自己肯定感の向上や人間関係の形成に着目した「自立活動」の取組を行っています。生活、医療、教育の3つの主体が情報を共有し、安全で安心な生活環境の下、それぞれの児童に合わせて配慮された生活と個別の支援を行うことで、問題行動の根本的な要因である虐待に起因する様々な問題を改善することを目指して、取組を続けていきます。

※小5児童については、小学校卒業までに支援の効果が見込める児童を対象とする



東京都 石神井学園

設置年月：明治5年
所在地：〒177-0045 東京都練馬区石神井台 3-35-23
事業種別：指定管理事業 第1種社会福祉事業 児童養護施設 定員134名
都型グループホーム2カ所 国型グループホーム1カ所
第2種社会福祉事業 地域子育て支援事業 定員7名

http://shakujii-gakuen.tokyo/

石神井学園 検索



石神井学園は、石神井公園や図書館等多くの文教施設に囲まれた場所に建っています。
明治5年（1872年）に東京府が創設し、渋沢栄一が長く院長を勤めた養育院の巣鴨分院が前身で、昭和17年（1942年）に現在地に移転しました。現在の入所定員は、134名です。
子供たちは地域の人々に見守られながら恵まれた環境のなかで成長しています。

支援内容

家庭的な寮運営	本園は、幼児から高校生までの子供たち8人を単位とする寮で、家庭的な雰囲気のもと、職員この他、地域の中のグループホームを3ヶ所運営しています。	とともに生活しています。
一人ひとりを尊重した支援	恵まれた自然環境の中で、一人ひとりの子供の意向や個性を尊重し、子供自身が真に大切にさに適った質の高いサービスの提供に努めています。職員は子供たち一人ひとりの個性と発達の	れていると感じる「児童の最善の利益」状態を考えて支援しています。
子供の安心、安全を守る	学園で暮らす子供たちの人権の擁護を実現するために、「第三者サービス評価」「苦情解決シス会活動」など、園全体で権利擁護に取り組んでいます。	テム」「子ども相談員」「子供たちの自治
アフターケアの充実	子供たちがいつまでもしあわせにと願い、卒園後のアフターケアに取り組んでいます。相談、応じて一時的に園に帰ってきた子供への支援を行っています。	訪問、家族や会社との連携、また必要に
公的な役割	これまで、都立施設が担ってきたセーフティーネットとしての公的な役割を引き続き果たして子供たちが抱えている心の傷を癒し、行動や情緒が安定するよう支援しています。高度な支援課題を有する高齢児童の支援をしています。	いきます。
地域との連携	地元の練馬区からショートステイ及びトワイライトステイ、豊島区と中央区からショートステ専用スペースで家庭的な支援をしています。	イの委託を受けています。

東京都石神井学園の1年

April 4月	児童福祉施設球技大会（7月） 「江戸っ子杯」（野球・ドッジボール・バレーボール） 日頃の練習の成果を発揮してがんばります。
May 5月	
June 6月	
July 7月	
August 8月	お泊り会（8月） 小学生みんなで、学園のグラウンドやアリーナにお泊りです。 石神井公園でウォークラリー、夜は石神井公園までナイトハイク！
September 9月	夏祭り（8月） 小学生のお御典からスタートして、出し物ショーと模擬店のあとは、花火大会で盛り上がります。
October 10月	児童福祉施設球技大会（11月） 「江戸っ子杯」（サッカー） 日頃の練習の成果を発揮してがんばります。
November 11月	地域交流スポーツ大会（11月） 地域の皆さんと一日楽しく過ごします。 27年度は卓球大会を行いました。
December 12月	クリスマス会（12月） たくさんのご馳走とサンタクロースからのプレゼントで楽しい時間を過ごします。
January 1月	もちつき大会（1月） みんな交代で餅つきをします。 できたてのおいしいお餅をお腹いっぱい頬張りませす。
February 2月	卒園卒業を祝う会（3月） 小学校・中学校の卒業を迎える子供たちを祝うとともに、学園を巣立っていく子ども達を送る会です。 様々な出し物で、にぎやかに新たな門出を祝います。
March 3月	寮・フロアごとの外出や宿泊旅行 子ども会の遠足 お楽しみのお出や外食、宿泊旅行などは、寮やフロアごとに行きます。 子ども会の遠足も楽しみます。

グループホーム「さつき寮」の取組

Staff Interview

グループホームさつき寮では、寮独自で様々な取り組みを行っています。平成24年、25年の2年間では、子ども達に正しい性知識を伝える性教育に取り組みました。

月1回のペースで、テーマやねらいを決めて、24年は「自分の体と自分の心は自分のもの」、25年は「きみたちが生まれてきたから出会うことができたよ、ありがとう」の職員からのメッセージを込めて行いました。「さつきさんちの身体（からだ）のはなし」と題してのこの取り組みで、子ども達に職員の思いを伝え、また、子ども達も正しい知識を身につけ、成長していくことができたと感じています。

2年間の取り組みを活かして、平成26年は、食育に取り組みました。「さつきさんちのからだのはなし たべもの編」では、命をいただくことなる「食べること」の大切さ、楽しみと同時に、生きる上での基本であることを伝えていくため、料理や様々な体験に取り組みました。

そして、平成27年は、子ども達の未来、将来のために、いろいろな職業を知ってもらい、社会の仕組みを伝えていくため、「さつきさんちのからだのはなし おしごと編」に取り組みました。

子ども達ひとりひとりが、やりたい仕事を選び、その職業について学び、また、ボランティアさんの協力を得て実際にその職業を体験しました。

寮内で使える紙幣を作り、給料をもらって、買い物をしたり、お金をためるといった経験を通じて、将来について考える機会を作りました。

子ども達は、最初は戸惑いもありましたが、それぞれの取り組みを通じて様々な体験をして、楽しく学ぶことができたと思います。

これからも、子供たちの生活を充実させていけるよう取り組んでいきたいと思っています。



養護係 石井 彩香さん（6年目）

心理職からケアワーカーへ

私は、平成20年度に心理職として東京都社会福祉事業団に入職しました。実は、入職前は心理職ではなく、直接処遇職員（ケアワーカー）として働くことを目指していました。しかし、大学院2年次に、非常勤心理職として児童養護施設で勤務した経験から、児童養護施設の心理職という仕事に強い関心を抱き、悩んだ末に心理職として働くことを決めました。

平成20年4月に石神井学園に配属され、心理職としての仕事に7年間従事しました。虐待による心の傷を抱えた子どもたちへの支援、その子どもたちを最前線で支えるケアワーカーのメンタルヘルスなど課題は多く、壁に直面することも多々ありましたが、共に働く先輩や仲間たちの存在が大きな支えとなり、ここまで続けて来ることが出来ました。

その7年間で全ての仕事をやりきったとは到底言えませんが、新たな可能性にチャレンジしてみたいと考え、サブマネージャー選考試験を受験しました。

そして、平成27年度からはサブマネージャーとして、新しくスタートした連携型専門ケアモデル事業に配属されています。現在は、心理職としてではなく、かつて目指していたケアワーカーとして働いており、日々子どもたちの生活を支え、愛着を育むアプローチをするべく、奮闘しているところです。同じ施設にいながら、心理職からケアワーカーという立場が変わったことに戸惑いがないわけではありませんが、心理職としての経験やその中で培ってきたものが、今の仕事にも活かしているのではないかと思います。

今後も、子どもたちの最善の利益を常に考え、これまでの経験と新たな知識とを融合させながら、様々な課題に取り組んでいきたいと考えています。



連携型専門ケアモデル事業入所児童への生活支援を行うせせらぎ寮外観



利用者児童 居室



養護係 藤岡 孝雄さん（9年目）



児童作品 おりがみ



リビングルーム